



褒めること、認めること

4月から、2年生教員チームは、一筆箋を書いて子どもに渡したり、子どものがんばりをメールで伝えることに取り組んできました。

褒められたら誰でもうれしいものなので、子どもの意欲向上や望ましい習慣・行動の定着のためにも、先生というものは子どもを褒めるよう努めます。ただ褒めるだけなら、学校で直接子どもを褒めればよいのですが、2年教員チームはできるだけ一筆箋やメールを介して保護者の皆様に伝えていきます。それは、子どもの発達段階を考慮しているからです。（学校の様子を伝えたり、安心感をもってもらったりする意味合いもありますが・・・）

誰から褒められてもうれしいものですが、人には一番認めてほしい対象というものがあり、それは発達段階によって次のように変化するそうです。

（発達段階は大まかに学年で示しています）

発達段階	園児～低学年	中学年	高学年～
認められたい対象	親	先生、コーチなどの所属する集団の大人	同年代の仲間

これを見ると、低学年は一番自分の親に認めて欲しいことが分かります。もう少しすると、「先生に認められたい」「お父さんやお母さん以外の人からも認めてほしい」という時期がきますが、2年生の夏はまだまだ親に褒めてもらって、認めてもらえることが一番励みになる時期です。

そのため、一筆箋やメールでできるだけみんなのがんばりを保護者の皆様にお伝えし、ご家庭で褒めてもらえるように取り組んでいるのです。子どもたちが力強く成長していけるように、ぜひたっぷり褒め、認めてあげてください。

～「認められたい対象」によって不良の説明がつく?!～

先生や親に従わず、不良行為をすることが一世を風靡した時代も上記の理論で説明がつくそうです。中高生は、認められたい対象が同世代の仲間たちです。親や先生の言うことを聞くいい子でいることは同世代にダサいと思われ、普通の人ができないことをやってのけることがイカしていると思われるのと、反社会的な行為がその世代で流行するそうです。社会人になって働き始めると、反社会的行動が減っていくのも、社会的な成功の方が所属する集団の仲間にも認められるためと考えられそうですね。



【おにぎり一筆箋 実は本校職員が開発した人気商品です】

褒めかた7選

まだまだ、私自身勉強中の身ですが、ここまで身に付けてきた「褒めのポイント」をいくつか紹介させていただきます。

①具体的に褒める	<p>「よかったよ」だけだと、何がよかったのかが分かりません。できるだけ詳しく褒めると、どうがんばればいいのか見通しがつき、次の活動もがんばりやすくなります。</p> <p>例「今日の日記は、『なぜなら』を使って理由を説明できていいね！学校で勉強したことを日記に生かしているのがすごいね！」</p>
②なんとなく褒める	<p>①とは逆ですが、数値化できない優しさや笑顔のようなものも褒めることができます。2年生の子たちはこういった数値化できないよさをたくさん持っていると思うので、ぜひ伸ばしてあげたいです。</p> <p>例)「〇〇くんがいるとなんか心が落ち着いて癒されるな。」</p>
③大げさに褒める	<p>これまた①とは少しずれますが、話の内容だけでなく声の抑揚や表情といった非言語からも人は多くの情報を獲得しています。これを利用すると、同じ「すごい」でも、言い方ひとつで受け取る印象を大きく変えることができます。</p> <p>例)「すごい！！！！」「すごーい」「すっ、すごい・・・」</p>
④経過を褒める	<p>結果よりも努力や取り組み方を褒めた方がよいです。結果ばかりを褒めていると、よくない結果が出た場合にそれを隠したり、自己評価が下がったりする場合があります。</p> <p>例)「満点も大したものだけど、家で毎日がんばってきたよね。こんなにできるまで努力した姿勢がすごいね！」</p>
⑤励ましたことで褒める	<p>応用編です。何も働きかけないで褒めようとする、元々できることしか褒められません。できることが増えていくように、子どもががんばれるように、上手に励ましましょう。励ました結果できるようになったことを褒めると、できることはどんどん増えていきます。</p>
⑥褒めて欲しいことを褒める	<p>上級編です。相手が最も努力したことを適切に見取り、褒めます。例えば探究プレゼンテーションだったら、声の大きさ、堂々とした態度、原稿の構成、スライドの出来、質疑応答の様子、完成度など、どこにどんな思いと努力があるかを想像します。それができれば、「いい発表だったよ」の後に、いろいろな言葉を伝えてあげたくなることでしょ。</p>
⑦本人も気付かないよさを褒める	<p>こちらも上級編です。⑥のように、褒められるのもうれしいし、成長があるものですが、気付かないものを気付かせてもらえるのもやはりうれしいし、成長があるものです。私もずっと近くにいる大人として、本人が気付かないようなその子のよさを見つけて伝えてあげたいなと思っています。</p>